

## 事業の背景・目的

前年度に実施した希少野生生物の生息状況調査の結果をふまえ、地域住民の保全活動につながるよう、広く市民に普及啓発を行う。大学等の研究機関と連携体制を構築し、地域住民の希少野生生物のモニタリングに、環境DNAを用いた手法を導入する。また、希少野生生物の生息環境が瀕している危機を行政、研究機関と共に情報を共有し対策について検討・検証を行う。

## 事業の内容

### 事業① 国内希少野生動植物等対策事業 希少野生生物及び生物多様性保全研修会の開催

越前市西部地域以外に希少種保全監視活動を広げていくため、市東部地域において岐阜協立大学の森誠一教授、城西大学の石黒直哉准教授を招聘し、トミヨの保全研修会を地域住民対象に行った。保全方法を学ぶとともに、今後の活動を検討するために意見交換を行った。



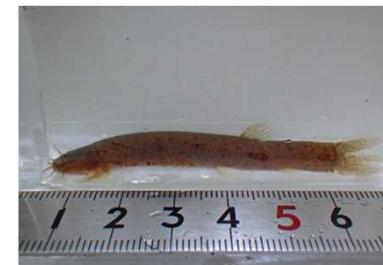
研修会

### 事業② 河川・水路の自然環境保全事業

トミヨと絶滅危惧 I Bに分類されるナガレホトケドジョウのについて、DNAマーカーを用いた環境DNA分析を行い、生息状況を明らかにした。



生息調査



ナガレホトケドジョウ

## 得られた成果

- ・城西大学との協働で環境DNAによるアベサンショウオ等の生息状況調査を行い、検出精度の高いリアルタイム及びデジタルPCRの手法が確立された。
- ・希少野生生物や生物多様性保全再生への理解が進み地域の環境保全に取り組むについて新たな住民の参加があった。
- ・昨年度開発したホトケドジョウ属及びトミヨ属に特異的なDNAマーカーを用いた環境DNA分析を行い、市内の希少種を生息状況を明らかにした。